

## 連載：技術経営の事例紹介

### 第2回 サービス価値で医療は変わる

#### —企画し、構築し、運用できる人財の育成—

研究員（工学博士）山中 隆敏

医療機関の大半が厳しい経営状況にある中、生き残りをかけた業務改革の推進、医療の質の向上、患者サービスの向上が重要な課題となっている。その課題解決の一手段として、ICTによる診療情報を電子化・活用する診療画像情報サービスの構築運用がある。

このサービスが、医療に関わる利用者（医療スタッフ、患者・個人）にとって、どのようなサービス価値の恩恵を得られるのかについて論じてみたい。

#### 新しい医療サービスの構築運用

診療画像情報サービスとは、診療した患者のカルテ情報の管理と経過観察、医療撮影装置から検査した医療画像をデジタル管理し、端末上で画像を観察することで、医師の診断を支援する情報サービスである。各種画像との比較（複数の医療装置や過去検査）、心臓の動きを四次元でリアルに可視化する高度な画像処理、先進AI診断技術でガンの疑いのある場所を自動的に検出する精度の高い診断を実践する。また、ペーパーレス、フィルムレス化によるフィルム代、保管スペースの縮小によるコスト削減が実現可能になる。

さらに、複数の医療機関を受診しても診療画像情報を共有できるよう、個人を特定するマイナンバーをキーに医療施設間共有データベースを構築、診療画像情報を安全で強固なセキュリティで、端末があれば複数の医療機関から患者の診療画像情報を安全でいつでもすぐに参照することができるようになる。

これは、医療スタッフ間での情報のやり取りをチームで共有しながら診療診断に役立てることができ、チーム医療の推進が可能になる。この新しいサービスを経営に繋げる企画構築運用が出来る人財を育成し、儲けることができる医療を実践する。

#### 医療サービスで経営改善を実践

診療画像情報サービスを構築運用することにより、フィルム代、保管スペースの縮小で数億円規模のコスト削減が出来ている事例が全国各地にある。

端末上から、いつでも・どこでも・すぐに診療画像が観察できるようになり、診療目的に応じた情報が取得できることで、画像診断業務を30%以上効率化でき業務負担を軽減している。

#### 医療サービス価値の恩恵

患者・個人は、複数医療機関の診療画像情報やチーム医療推進で精度と質が高く個人に寄り添った診療診断が受けられ、安全で良質な医療を受ける恩恵が得られる。医療機関は、医療スタッフへの業務負担軽減、患者へのサービス向上でブランド価値が上がり経営改革に繋がる。

—以上—